

8月10日(土)発行

15
YEARS
1904-2019

ミューザ開館 15周年!

ほぼ

日刊サマーミュージック

Hobo Nikkan Summer Muza

朝刊



まさに、若さと情熱の「新世界」!

©青柳聡

【8/9:昭和音楽大学】

フェスタ サマーミュージックの常連であり、新百合ヶ丘キャンパスにあるテアトロ・ジリオ・ショウワがサマーミュージックのコンサート会場にもなっている昭和音楽大学。弦・管・打楽器専攻の学生を中心に卒業生も加えたオーケストラが聴かせたのは、まさに「若さと情熱の「新世界」」だった。

コンサートの後半、長身のマエストロである齊藤一郎の、その場の空気を攪拌して新しいエネルギーを生み出すような指揮に導かれ、ステージ一杯に広がったオーケストラが速いテンポによる

引き締まった音楽を繰り出してくる。力強さで押した第1楽章、感傷に溺れない第2楽章を経て、民俗舞曲風の第3楽章で「攻めまた攻め」の演奏へ。その勢いは第4楽章になっても変わることなく、「マッチョな」と形容してもいいほど壮大なフィナーレを作り上げた。なかなか聴けないほどピターな「新世界より」だが、その中から自然に浮かび上がる哀愁や叙情も、この若いオーケストラならではののだろう。

コンサートの前半はイングランドの古い歌をモチーフにした「グリーンズリーヴスによる幻想曲」、

そして大学の客員教授も務める古川展生をソリストに迎えたエルガーのチェロ協奏曲。どちらもイギリスの哀感をバックしたような音楽であり、猛暑の毎日の中でホール内には早くも秋が訪れたような雰囲気。スリリングな古川のソロに引っ張られてか、オーケストラもどどん熱を帯びていくように感じられたが、このヴィヴィッドな反応こそが若い世代の感性なのかと思ったほどだった。

(オヤマダアツシ/音楽ライター)



前半、古川展生(チェロ)独奏によるエルガー:チェロ協奏曲から。

来場者の声

期待していた以上に素晴らしい演奏会でした。辛くて悲しいニュースばかりの川崎に新しい生命の息吹に満ちた音楽を聴かせてもらい、若い方々のこれからのエネルギーに心より感謝します。これからの明るい未来を共につくっていきたいですね。(60代・比路木) / パワー全開の新世界!……PMFのショスタコ4番が「祭り」の力ならば、今日は「心の洗濯」。かもしれない。本当に1,000円でいいの?(50代・オト・フネスキー2019) / 出演者のみなさんのいきいきとした様子に目から耳から感動しました。(40代・金魚の会) / 学生さん達にとって、プロのオーケストラと同じ土俵に上がることはかなり重圧感があるのだろうけれど、何とか立派にやりとげたではないですか! 年々演奏も良くなってきているように感じます。これからの活躍に期待します。(50代・地方公務員) / 古川さんの大ファンなので、この日を楽しみにしていました。エルガーのチェロ協奏曲は初めて聴きましたが、一曲に喜怒哀楽全てが盛り込まれているような味わい深い曲でした。「新世界より」はこれまで何度も聞いたことがありましたが、今だからこそ発見できた音があってとても感動しました!(40代・miwa)

東京フィルハーモニー交響楽団 ～感動を呼ぶマエストロと劇的な「悲愴」を～ 8/11(日祝) 15:00開演(11:00公開リハ開場/14:30本開場) ミューザ川崎シンフォニーホール



NEXT!
サマーミュージック
明日のチケット情報



指揮/ダン・エッティンガー



フルート/高木綾子

- ワーグナー: 楽劇「ニュルンベルクのマイスタージンガー」から 第1幕 前奏曲
- モーツァルト: フルート協奏曲第1番
- チャイコフスキー: 交響曲第6番「悲愴」

リハ 11:30～公開リハホール(自由席)
*途中入退場不可。終了後、客席をクローズします。

完売御礼

*当日券の販売はありません (8/10 16時更新)

弟子が語る、アルフィート・ガストの魅力

ヨーロッパ屈指のオルガンの名手アルフィート・ガスト。弟子であるミュージアホールオルガニスト大木麻理が師匠の姿を語りました。



ガストさんは超絶なテクニックの持ち主で天才肌。とても真面目な人ですが、繊細でおしゃれにも敏感です。そんな遊び心や美的センスも音楽に表れ、彼の魅力となっています。

どんな曲も得意なガストさんですが、ドイツ・ロマン派の演奏・解釈は今世界一といわれています。この時代の作品は音の組み合わせが大事なのですが、彼は作曲家がイメージしたであろう音色を、それぞれのオルガンの特徴を見抜いて即座に再現するのです。とはいえ彼自身「再現しよう」とは

思っておらず、ドイツに残る大作曲家たちが弾いたオルガンを奏でた経験から自然にそうなるのだと思います。

注目はガストさんの指。大きな手で、指の付け根はとても太いのですが、先端に向かって、まるで女性の指のように細くなります。ロマン派作品の重厚な和音は大きな手が有利ですが、同時に技巧的なパッセージを引くための小回りが利く繊細な指先も必要。「ガスト指」はその両方を兼ね備えています。

今回のプログラムは、彼が

ミュージアで演奏するならこんな曲が聴きたいな……とまさに私が思っていたもの。ドイツ・ロマン派の作品をメインに、ガストさんのオルガンワールドを堪能できる2時間です。ミュージアのオルガンは休館中に行った再整音でさらに音がよくなったので、ガストさんから新しい響きが生まれると思います。

ガストさんの魅力を味わい尽くす9月の午後を、どうぞお楽しみに！

*本稿は「スパイラル」掲載記事(取材・原文:榊原律子)を再編して掲載しています。

◆アルフィート・ガスト

パイプオルガン・リサイタル

9/8(日)14:00開演

・J.S.バッハ: 幻想曲とフーガ ト短調 BWV 542、「ライプツィヒ・コラール集」より いと高きところには神にのみ栄光あれ BWV 662

・J.アラン: ファンタジー 第2番

・M.レーガー: 「我らの神は堅き砦」によるコラール幻想曲

・S.カルク=エラート: カンパネッラ風ロンド
・F.リスト: 「アド・ノス、アド・サルタレム・ウンダム」による幻想曲とフーガ

◇終演後:ガスト教授のロマン派談義

本公演の演奏作品について、ガスト氏本人による解き明かしを行います。(18:00終了予定)

【料金】全席指定 3,000円

U25 1,000円(小学生~25歳以下)



パートナーショップのご紹介
エンジョイ!
川崎!!
Enjoy Kawasaki



ルッツさんも大ファンのお店!

皆さんこんにちは!オルガニストの大木麻理です。

今回ランチにお邪魔したのは、【音音(おとおと) ラゾーナ川崎プラザ店】。なんと素敵なお店の和食のお店です。この日は夜公演の前でしたので、お肉を食べてパワーをチャージしようと私が選んだのは【厚切り牛タン炭火焼とろる御膳(1,680円)】。炭火でふくらむジューシーに焼き上げられた牛タンがたまりません……そして栄養たっぷりのとろろは夏バテ予防にもとても良いそうです!

夜は日本各地のお酒が充実した居

酒屋さんとなる音音さん、実はルッツ氏も大ファンで、来日されるとこのお店に必ず足を運ばれています。もしかすると公演後に美酒を味わう姿に出会えるかも……?!

(ホールオルガニスト 大木麻理)

板前ごはん 音音 和食

▶ リスト P.19 掲載

▶ ラゾーナ川崎プラザ

▶ パートナーショップ特典

▶ 1ドリンクサービス (ソフトドリンク)

ミュージア公式インスタもフォローしてね!

Instagram
ミュージア川崎シンフォニーホール
旅するミュートン♪

サマーミュージア ルッツさんのコンサート@水戸芸術館にやって来たミュートン♪パイプオルガンは一台一台がその場所に合わせて作られるオーダーメイドの楽器です。「鍵盤の白と黒がミュージアの楽器と逆だ!!」「このノブみたいなものはなんだ?」楽器の不思議にミュートンも興味津々でした。
#旅するミュートン #ミュージア開館15周年 #水戸芸術館 #ルッツさんもマイミュートン #世界に広げよう友達の輪



友の会
キャンペーン
実施中

新規入会でもらえる!

サマーミュージア期間中(8/12まで)に友の会に入会された方に、【サマーミュージアオリジナルチケットホルダー】または【ミュージアオリジナルトートバッグ】のいずれか1つをプレゼント!

ミュージア友の会

・年会費3,000円
・チケット割引
・先行予約
など、お得な6つの特典あり!
詳しくは友の会入会窓口(ホール 歓喜の広場特設カウンターもしくは5階受付)まで

現・会員の方に プレゼント!

サマーミュージア公演にご来場の友の会会員様に【生田の天然水「恵水」ミュージアラベル】をプレゼント!DM同封の引換券をお持ちください(1枚につき1本お引換)



サマーミュージア公式サイト
https://www.kawasaki-sym-hall.jp/festa/



#サマーミュージアで投稿してください!

Twitter: @summer_muza

Facebook: @kawasaki.sym.hall

Instagram: @muzakawasaki

と 等々力に 歓声轟く フロントアール (source: sleephead)

川崎おんがく かるた製作中 <2019年末販売>

【謹製】15周年でぬいぐるみ800円(税別) 友の会限定! サマーミュージア期間限定! 特別価格 5100円(税別) ショップへ

昨日の感動をお届けします!!
日刊サマーミュージア
Hobo Nikkan Summer Muza

夏が来たと感じる時期が、今年もやって来た。フェスタサマーミュージア KAWASAKI 2019。今回は仙台フィルハーモニー管弦楽団が初参加であった、ミュージアでの初めての演奏を楽しみにしていたが、さすがの演奏で本当に素晴らしいものだった。

また、毎回恒例の公演の中にも楽しみなものがある。それはミュージアのホールアドバイザーで、ピアノの小川典子さんの企画公演「こどもフェスタ2019 イッツ・ア・ピアノ・ワールド」である。毎回思う事だが、今回も小川さんも子ども達も曲を身体全体で感じて、本当に楽しんでいるのが良かった。それと個人的に楽しかったのは、子ども達から小川さんへの質問の数々だ。演奏会の事、ピアノそのものの事、小川さん個人に関する事など、様々な質問内容から子ども達の素朴な思いが汲み取れて、心が和むと時だった。たまに思わぬ方向からくる質問も、これはこれで微笑ましいものがあった。(しようた)

スタツフ日誌